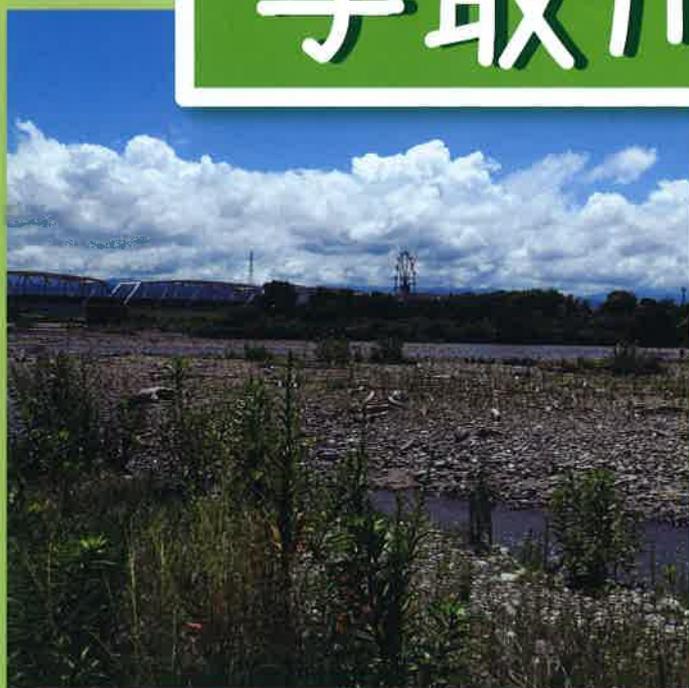


企画展  
手取川の植物



2024年 7月20日(土) ~ 10月27日(日)

9:00-17:00 (入館は16:30まで)

会期中  
無休

入場  
無料

石川県立自然史資料館 2F 企画展示室

〒920-1147 石川県金沢市銚子町リ 441 番地

TEL: 076-229-3450 FAX: 076-229-3460

URL: <https://www.n-muse-ishikawa.or.jp/>



主催：石川県立自然史資料館 後援：北國新聞社

石川県最大の河川である手取川の流域には多くの水辺の植物がみられ、希少な絶滅危惧種にとって貴重な生育地になっています。手取川の豊かな環境をささえているのは、自然による「攪乱(かくらん)」です。雨が多く降ると、川岸が水に沈んだり、流されたり、土砂で埋もれたりして、大きく環境が変化—攪乱—します。攪乱が自然に起こる環境に合わせ、たくさんの河川の生きものが命を育んでいます。近年、河川ではダム建設により自然攪乱が減っています。自然攪乱が起こる河川環境に生育する植物の居場所はどんどんなくなってしまいました。その一方で、改修工事や開発などによる人工的な攪乱は増えています。手取川の自然は、この数十年で大きく変わりました。

自然史資料館には、手取川流域で採集された多数の植物標本が収蔵されています。その大半は、川原健彰(かわはらとしあき)さんという方が採集した標本です。川原さんは、手取川ダムという大規模ダムの建設直後にあたる約40年前に手取川の植物調査を実施しました。詳細な河畔植生の調査記録と採集標本が残されている、全国的に見ても稀有な事例です。

本企画展では、川原さんによる調査報告と共に2022年から実施している「手取川環境総合調査\*」の樹木・植物班の調査結果から、手取川の植物がどのように移り変わってきたのかを紹介します。手取川流域に遺された石川県の宝ものである植物の昔と今を伝えます。

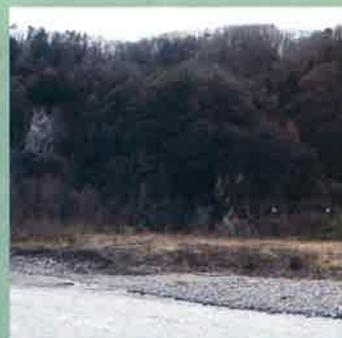
\*北國新聞創刊130年記念事業の一貫として実施



スズサイコ



ナニワス



展示  
内容

- 植物標本でみる手取川の植物の昔と今
- 川原の希少な植物を守るためには—今、絶滅危惧植物はどうなっている?
- すごい植物調査者!川原健彰さん
- 写真で見る手取川の植物今昔

関連  
行事

手取川の水辺の植物観察会

10月26日(土) 10:00~12:00

対象：小学生~大人 定員：20名 要申込・電話9/26~ 無料



交通  
案内



● 駐車場完備 (大型バス駐車可)

● 路線バスご利用時

金沢駅東口バスターミナル

『95 北陸大学太陽が丘ゆき』  
『95 北陸大学薬学部ゆき』  
→【北陸大学太陽が丘下車】  
→徒歩約10分

『12 湯涌温泉ゆき』  
『12 北陸大学薬学部ゆき』  
『12 北陸大学太陽が丘ゆき』  
→【銚子口下車】  
→徒歩約10分

